

## 教科等横断型授業「 地理 」×「 地学 」 学習指導案

SDGsでの課題	SDGsの番号( 17 番)「 パートナーシップで目標を達成しよう 」			
実社会での課題	日本は自然災害が多い国の一つであり、我々は自然の脅威にさらされている。特に、2018年の西日本豪雨において、愛媛県南予地方では大きな被害が起きた。そのため、私たちは自然環境の特徴を正しく理解し、自然災害に備えた対策を講じることが重要である。			
生徒に身に付けさせたい資質・能力	気象庁が提供している「キキクル」や宇和島市のハザードマップを適切に用いることで、大雨による災害が起こった際に、自分の命は自分で守る力を身に付けさせる。			
主題(教材)	自然災害に強い地域を目指そう			
	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項	資 料 等
指 導	1 大雨による災害の際に、避難する目安として「キキクル」を用いることができることを理解する。	5	○ 大雨の際、どこに、どのタイミングで避難するのかと発問することを通して、「キキクル」について主体的に学べるようにする。	○気象庁「危険度の高まりに応じて段階的に発表される防災気象情報」
	1 「キキクル」の基準になっている土壤雨量指数をはじめ、過去約30年分の災害データから地域ごとに基準が設定されていることを理解する。	5	○気象庁のリーフレット「キキクル 大雨警報・洪水警報の危険度分布」を用いて、キキクルの基準を理解させる。	○リーフレット「キキクル大雨警報・洪水警報の危険度分布」
過 程	2 避難指示等が発令されていなくても、「キキクル」の危険度分布から自分が住んでいる場所に応じて、自ら避難の判断をする必要があることを理解する。	10	○気象庁のキキクルに関するチラシを用いて、自分で避難の判断をする重要性を理解させる。	○チラシ「キキクル(危険度分布)の紫は警戒レベル4相当！自ら避難の判断を！」
	3 災害発生時の行動計画を立てる。 (1)ハザードマップなどで自宅・学校周辺の状況を確認する。  (2)避難計画を立てる。	25	○風水害を想定して、防災マップや洪水ハザードマップを参照して、避難する場所や避難のタイミングなどを考えさせる。	○タブレット端末 ○宇和島市総合防災マップ ○洪水ハザードマップ ○「マイ・タイムラインシート」
	4 班内で発表する。		○気付いたことや改善点を話し合い、今後の防災活動に生かす。	
整 理	1 本時のまとめを行う。	5	○情報を集めることや、事前に災害に備えた詳細な計画を立てることが大切であるということを伝える。	
備 考				